
2022年度 JWU 女子高等教育センター 活動報告

JWU 女子高等教育センターは、本学の建学の精神、教育理念を実現するため、学生の視点に立った継続的な教育改革を教職協働で進め、本学における教育の質の向上に寄与することを目的とし、教学マネジメントの一翼を担う機関として2019年6月1日に設置されました。センター所長と6名のセンター委員及び事務局である大学改革推進室を中心に学修支援課の協力を得て、教職協働で教育改革に関する検討事項など、教育改革を推進するための幅広い検討と提案を行っています。2022年度は学修者本位の大学教育の実現に向けた取り組みを推進するとともに、大学における改革の必要性を広く教職員に周知し、改革マインドを醸成していくためのFD・SDセミナーを実施しました。

構成員

センター所長 和賀 祥 (理学部)
センター委員 遠藤 知巳 (担当理事・人間社会学部)
佐藤 克志 (家政学部)
額田 春華 (家政学部)
加藤 玄 (文学部)
黒岩 亮子 (人間社会学部)
長谷川 治久 (理学部)

センター委員ミーティング開催日

第1回 2022年4月27日(水)
第2回 2022年5月11日(水)
第3回 2022年5月25日(水)
第4回 2022年6月8日(水)
第5回 2022年6月22日(水)
第6回 2022年7月6日(水)
第7回 2022年7月20日(水)
第8回 2022年9月22日(木)
第9回 2022年10月6日(木)

- 第10回 2022年10月20日(木)
- 第11回 2022年11月10日(木)
- 第12回 2022年11月24日(木)
- 第13回 2022年12月15日(木)
- 第14回 2023年1月19日(木)
- 第15回 2023年2月13日(月)
- 第16回 2023年2月27日(月)
- 第17回 2023年3月17日(金) ※メール審議

JWU女子高等教育センター主催によるセミナー

- 第1回 2022年7月14日～8月20日
関西地区FD連絡協議会企画・制作
動画「シリーズ 大学の授業を極める」の視聴

主な検討課題

- ・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直し

教育改革の柱である学修者本位の教育の実現を目的として、新しい大学ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、及び学科ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを策定しました。当初は2023年4月からの導入を予定しておりましたが、大学案内や入学試験の募集要項への掲載、及びシラバスへの反映等に十分な準備期間を確保することから、2024年4月より導入することとなりました。

- ・単位制度の実質化

第三期大学認証評価で改善課題として指摘を受けた単位制度の実質化への対応に向け、2024年度入学者より履修登録単位数の上限を引き下げる決定をしました。各学科における卒業要件内単位の登録上限単位数、及び卒業要件外単位を含めた登録上限単位数を決定するとともに、成績優秀者に対する上限の緩和基準を設けました。

- ・授業アンケート

授業運営に関わることなどは次の期に持ち越すことなく、序盤の段階で改善を図ることを目的として、授業改善のための中間アンケートを実施しました。

また、授業改善を図るための制度的取組として、授業アンケートにおいて授業の総合的な到達目標達成度、もしくは授業の総合的な満足度に係る設問の評価が低い授業担当者に対する授業改善に向けた相談機会の設定について検討しました。当件については、授業アンケートの設問の見直しや回答率を上げるための方策の立案とあわせて、引き続き検討を進めて参ります。

- ・ポートフォリオの導入

学生の学修成果を可視化することを目的に、ポートフォリオ「マイステップ@JWU」を

2022 年度新生より暫定導入しました。導入後、積極的に利用している学生にヒアリング調査を実施し、ポートフォリオに記録できる項目の追加や告知方法の改善を図る等、ヒアリング内容を反映したうえで 2023 年度新生から本格導入することを決定しました。

- ・ IR の推進

IR の推進の一環として 2017 年度以降のデータをまとめたファクトブックを作成し、学内に公表しました。2023 年度以降も随時データを更新します。

- ・ 新任教員研修の実施

新任教員全員を対象に、学修者本位の教育への転換や本学の教育改革への取り組みを理解してもらうための研修を実施しました。

- ・ 初年次教育の実施

学務部や学生生活部と調整し、2023 年度新生向けの全学的な初年次教育を 2023 年度新生オリエンテーション期間に実施することを決定しました。2023 年度新生は全員、三綱領、大学での学び、授業アンケート、ポートフォリオ等をテーマとして当センターが作成する初年次教育に係る動画を視聴します。

所長メッセージ

今年度、全学的にディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行いました。この見直しは、内容を大幅に変更するのではなく、在学生、高校生、保護者および企業の方々にも理解していただけるような文言に整え、ポリシー全体の構成を整理したものです。特にディプロマ・ポリシーについては、大学在学中に達成可能で、その達成度を測定できるという点を重視しながら見直しました。

言うまでもなく、重要なことは見直し自体ではなく、見直したディプロマ・ポリシーで提示した学修成果（学修目標）を高いレベルで身につける（身につけられる）ように、教職員と在学生が共に努力することです。学修成果を身につける過程では、やはり日々の授業が中心的な役割を果たします。今回の見直しは、授業の到達目標やその達成に向けた授業方法、および到達度の評価と可視化が適切に行われているかを、授業担当者自らが再確認する良い機会であると考えています。

授業担当者による個々の授業とともに、学位プログラムを効果的に実施するためのカリキュラムや支援体制についても、改善に向けた不断の努力が必要です。改善のためには、現状を的確に把握することが必要であり、個々の授業に関しては、授業アンケートが現状を知る優れた方法です。そのアンケート結果を踏まえた授業の継続的な改善、そして卒業時アンケート結果を踏まえたカリキュラムと支援体制の見直しと改善は、入学年ごとに変わる学生に対応していくためにも重要なことであると考えています。

今後は、評価の方法や達成度の可視化の方法などを、FD を通じて理解を深めていければと考えています。